

1 題材名 家族と子どもの成長

2 目標

- 幼児の心身の発達や遊びに関心をもって、幼児の観察や遊び道具の製作、幼児と触れ合う活動に取り組み、幼児と適切に関わろうとする。 (生活や技術への関心・意欲・態度)
- 幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。 (生活を工夫し創造する能力)
- 幼児の遊びや幼児の発達と家族の関わりなどについて考え、観点に基づいて観察し、幼児への関わり方が実践できる。 (生活の技能)
- 幼児の基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性、幼児の心身の発達の特徴と遊びの意義、それを支える家族の役割について理解している。 (生活や技術についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 題材について

中学校学習指導要領解説技術・家庭編「A 家庭・家族と子どもの成長」の内容は、全ての生徒に履修させる(1)「自分の成長と家族」、(2)「家庭と家族関係」、(3)「幼児の生活と家族」の3項目で構成されている。ここでは、幼児との触れ合いや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活について関心と理解を深め、家族や幼児に主体的にかかわることをねらいとしている。また、課題をもって、家族関係や幼児の生活について工夫し、実践しようとする意欲と態度を育てることもねらいとしている。

(2) 生徒の実態について

(調査日 平成*年*月*日 実施調査人数*人)

<p>1 今年行われる予定の幼児触れ合い体験活動を楽しみにしていますか</p> <p>ア 楽しみである ……*人</p> <p>イ どちらかといえば楽しみである ……*人</p> <p>ウ あまり楽しみではない ……*人</p> <p>エ 楽しみではない ……*人</p>	<p>2 最近、幼児と直接かかわったことはありますか</p> <p>ア よくかかわっている ……*人</p> <p>イ かかわっている ……*人</p> <p>ウ あまりかかわっていない ……*人</p> <p>エ かかわっていない ……*人</p>
<p>3 自分が幼児だったころの鮮明な記憶はありますか</p> <p>ア 鮮明に覚えている ……*人</p> <p>イ 何となく覚えている ……*人</p> <p>ウ あまり覚えていない ……*人</p> <p>エ 思い出せない ……*人</p>	<p>4 あなたに弟や妹はいますか</p> <p>ア 0～1歳 ……*人</p> <p>イ 1歳～小学校入学前 ……*人</p> <p>ウ 小学生以上 ……*人</p> <p>エ いない ……*人</p>

アンケートの結果から、今年度予定している幼児触れ合い体験活動に対する関心は高く、体験活動を楽しみにしている生徒が多い。しかし、日常的に弟妹や近所の幼児と触れ合っている生徒は非常に少ない。また、自分が幼児だった頃を思い出せない生徒や、弟妹が大きくなっている生徒はますます幼児と関わる機会が減り、幼児期の心身の発達や生活の特徴を理解することは難しいと考えられる。

(3) 指導にあたって

自分が幼児だった頃のことを思い出す中で、心身の発達や生活の特徴について理解を図っていきたいと考える。そのために、実物を活用したり、既習事項を活用したりしていく。また、意図的な問いかけやグループ活動を通して、新たな課題を発見し、自分とは違う視点に気付くことで、意思決定能力を高めていく。学習過程では、幼児との触れ合いを学習の最後に設定することで、見通しをもって学習に取り組み、触れ合い活動を学習のまとめとして役立てていきたい。

4 指導と評価の計画（19時間扱い）

- 第1次 家庭や家族、地域とのかかわりについて考えよう 4時間
 第2次 自分の幼い頃を振り返ろう（自分の成長と家族） 2時間
 第3次 幼児の心身の発達や生活、遊びについて考えよう 8時間

時	学習内容・活動	観点別評価					
		評価規準	評価方法	関	工 技 知		
1 (本時)	幼児の成長と自立	幼児のおやつを考えて試食し、幼児の発達や生活の自立について理解している。	活動・ワークシート				○
2	幼児の身体の発達	幼児の身体の発達に関心をもち、特徴を理解している。	観察・ワークシート	○			◎
3	幼児の心・言葉・社会性の発達	幼児の言語、情緒、社会性に関心をもち、発達の特徴を理解している。	観察・ワークシート	○			◎
4	幼児の遊びについて	幼児の遊びと心身の発達の関係について、情報を収集し、整理することができる。	発表・ワークシート			○	
5	おもちゃについて	幼児の遊びの意義とおもちゃの役割、遊び方について理解している。	観察・ワークシート				○
6	おもちゃづくりの計画を立てよう	おもちゃづくりの計画を自分なりに工夫して立てている。	活動・ワークシート		○		
7 8	幼児のおもちゃを作成しよう	幼児の発達段階を考えた遊びや遊び道具、遊び方について考え、自分なりに工夫している。	活動・ワークシート	○	◎		

第4次 幼児と触れ合おう 5時間

5 本時の展開

(1) 目標

- 幼児のおやつの特徴について考え試食することで、幼児の心身の発達や生活の自立を手助けする方法について理解している。 (知識・理解)

(2) 準備・資料

ワークシート、幼児用おやつ（タマゴボーロ・かっぱえびせん・ハイハイ）、おやつを表示、はし（給食で持参しているもの）、スプーン

(3) 展開

- ㊦前時まで学習している内容の活用・確認 ㊦話し合い活動 ㊦評価
 ★研究テーマ目標達成に向けてのポイント

学習内容・活動	学習形態	指導上の留意点及び評価
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 幼児期の成長と自立について考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のおやつ的重要性について振り返る。 ・ 幼児期に食べていたおやつについて発表する。 	個人一斉	㊦家族とのかかわりの中で、幼児は中学生とは異なった支援を受けて自立していくことを確認する。 ・ 本時では、「幼児のおやつ」に焦点を当てて食事の自立を手助けする方法について考えていくことを説明する。 ㊦幼児にとってのおやつ的重要性を確認する。
2 スプーンと箸を用いて、タマゴボーロ（幼児用）を口まで運び、今の自分と幼児期の自分を比べて気付いたことを発表する。	グループ	・ 今の自分と幼児期の自分のスプーンの持ち方や使い方、箸の持ち方や使い方の違いについて気付くようにする。 ・ 発達段階でできるようになることや、周囲の

<p>(1) スプーンの持ち方 (握り方) スプーンの使い方 (すくう) 箸の持ち方 (握る) 箸の使い方 (うまく使えない)</p> <p>(2) 感想記入</p> <p>(3) 感想の発表</p>	<p>一斉</p>	<p>援助でできるようになることに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にスプーンや箸を使用することで、実感を持てるようにする。 ・自分の気付きを記述できるように促す。 ・他の班の生徒の意見から、視点や捉え方が異なることに気付くようにする。また、未記入の生徒には、友達の発表を参考にしてよいことを伝える。
<p>3 幼児のおやつを試食したり、表示を見たりして気付いたことを各グループで記入する。(かっぱえびせん・ハイハイ)</p> <p>(1) 食べ方</p> <p>①歯を使わない</p> <p>②前歯だけ</p> <p>③いつも通り</p> <p>(2) 味や食感</p> <p>(3) 栄養について</p> <p>(4) 表示や注意書きなど</p>	<p>グループ</p>	<p>㊦グループになって試食をしたり表示を見たりすることで、それぞれの気付きや意見を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ方を変えることで、幼児期の成長の過程をイメージしやすくする。 ・幼児のおやつに、カルシウムや鉄が多く含まれる理由について考えられるようにする。 ・おやつの与え方や注意書きについても触れ、正しい方法で実践できるように促す。
<p>4 本時の学習を振り返り、次時には幼児の遊びについて学習することを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想、自己評価の記入 ・感想発表 	<p>個人 一斉</p>	<p>★ワークシートを振り返りやすい形式にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想や自己評価を記入し、本時の活動の振り返り、まとめを行う。 <p>㊦ A 幼児の発達に応じて、親をはじめ周囲の大人が適切な時期と方法で、自立にかかわっていることを理解している。</p> <p>B 基本的な生活習慣について、幼児の発達、生活の自立についての視点をもって理解している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動に積極的に取り組めたことを賞賛し、達成感が持てるようにする。